

国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会 第11回学術集会

会期 2022年11月5日^土

オンデマンド配信：

2022年11月21日^月～12月20日^火

会場 WEB開催

会長

内藤 亜由美 [東京医療保健大学
立川看護学部 准教授]

副会長

安部 正敏 [医療法人社団廣仁会理事長、
札幌皮膚科クリニック院長]

木下 幹雄 [医療法人社団心愛会、
TOWN訪問診療所理事長]

地域包括ケア時代のニューノーマル ～転換期を迎える浮腫診療そしてケア～

プログラム・抄録集

特別メッセージ

廣瀬 俊朗 氏 [株式会社HIRAKU代表取締役、元日本ラグビー日本代表キャプテン]

特別講演

新型コロナウイルス感染症対策で見た地域包括ケアシステムの課題

阿南 英明 先生 [神奈川県医療危機対策統括官、藤沢市民病院副院長]

運営事務局：株式会社Klar(クラール)

〒371-0013 群馬県前橋市西片貝町4-23-4
TEL：027-260-9525/FAX：027-260-9322

E-mail：ilfj2022@klar.co.jp

URL：https://klar.co.jp/ilfj2022/

国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第11回学術集会

【開催概要】

日 時 2022 年 11 月 5 日（土）
会 場 ライブ配信・オンデマンド配信
テーマ 地域包括ケア時代のニューノーマル
～転換期を迎える浮腫診療そしてケア～

【実行委員組織】

大会長	内藤 亜由美	東京医療保健大学立川看護学部 准教授
副会長		
庶務担当	木下 幹雄	医療法人社団心愛会 TOWN 訪問診療所 理事長
オンライン担当	安部 正敏	医療法人社団 廣仁会札幌皮膚科クリニック 院長
実行委員	臺 美佐子	藤田医科大学研究推進本部社会実装看護創成研究センター 国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会事務局
学術アドバイザー	仲上 豪二郎	東京大学大学院医学系研究科健康科学 ・看護学専攻老年看護学/創傷看護学分野 教授
相談役	青木 和恵 孟 真	東京医療保健大学立川看護学部 教授 横浜南共済病院 院長補佐、心臓血管外科部長、 循環器センター部長

【プログラム】

開会のあいさつ・会長あいさつ

内藤 亜由美（東京医療保健大学立川看護学部 准教授）

学部長あいさつ

山西 文子（東京医療保健大学 学部長）

理事長講演

座長：内藤 亜由美（東京医療保健大学立川看護学部 准教授）

「ILFJ の 13 年間の軌跡 そして未来」

講師：真田 弘美（石川県立看護大学 看護学部 教授）

基調講演

座長：奥津 文子（関西看護医療大学看護学部 教授）

「浮腫の病態の基礎と圧迫療法」

講師：孟 真（横浜南共済病院心臓血管外科）

教育講演Ⅰ

座長：木村 恵美子（青森県立保健大学健康科学部看護学科 教授）

「心不全による浮腫、その診断と対処法」

講師：宇都宮 誠（医療法人社団心愛会 TOWN 訪問診療所城南）

教育講演Ⅱ

座長：吉沢 豊予子（東北大学医学系研究科医学部保健学専攻 教授）

「腎機能障害と浮腫 診断と治療」

講師：酒井 政司（藤沢市民病院腎臓内科 部長）

教育講演Ⅲ

座長：須釜 淳子（藤田医科大学社会実装看護創成研究センター 教授）

「リンパ浮腫に伴う皮膚の脆弱化」

講師：峰松 健夫（石川県立看護大学 看護学部 教授）

ランチタイムセミナー

共催：ニチバン株式会社

座長：内藤 亜由美

「手術やけがの傷あとをきれいにするための理論と実践

～患者さんの生活の質（QOL）向上のために～」

講師：小川 令（日本医科大学大学院医学研究科形成再建再生医学分野 教授）

特別講演

共催：株式会社ケーブ

座長：真田 弘美（石川県立看護大学 学長）

「新型コロナウイルス感染症で見た地域包括ケアシステムの課題」

阿南 英明（藤沢市民病院副院長、神奈川県医療危機対策統括官）

特別メッセージ

共催：アルケア株式会社

廣瀬 俊朗（株式会社 HiRAKU 代表取締役、元ラグビー日本代表キャプテン）

バーチャル企業展示

アルケア株式会社

一般演題

座長：佐藤 文（川崎市立看護大学看護学部 教授）

小林 範子（北海道大学病院婦人科）

1-1 「緩和ケア領域におけるがん性疼痛を有する浮腫患者に対する簡易リンパドレージの有効性：症例検討」

河村 愛（藤田医科大学病院 看護部）

1-2 「超音波検査で観察された末梢静脈カテーテル留置直後の皮下浮腫は中途抜去の要因となる」

高橋 聡明（東京大学大学院医学研究科健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学）

1-3 「がん終末期のリンパ漏セルフケア難渋症例に対する医療機関・地域間連携によるアプローチ」

宇野 みゆき（藤田医科大学病院 看護部）

1-4 「圧インジケーター付き弾性包帯での圧迫療法における圧迫圧と伸び硬度の検討」

根本 寛子（横浜南共済病院心臓血管外科）

共催セミナー

共催：マルホ株式会社

座長：内藤 亜由美（東京医療保健大学立川看護学部 准教授）

「こっそり伝えたい残念な保湿のスキンケア！～知ればトクする外用療法のコツとワザ～」

講師：安部 正敏（医療法人社団廣仁会札幌皮膚科クリニック 院長）

教育講演IV

座長：仲上 豪二郎（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 教授）

「ここまでできる在宅でのむくみ治療」

講師：木下 幹雄（医療法人社団心愛会 TOWN 訪問診療所 理事長）

パネルディスカッション

「浮腫の診断・アセスメント 現場でどうしていますか？現状と課題」

座長：木下 幹雄（医療法人社団心愛会 TOWN 訪問診療所 理事長）

内藤 亜由美（東京医療保健大学立川看護学部 准教授）

1 「多職種連携における看護師の浮腫アセスメント」

演者：臺 美佐子（藤田医科大学研究推進本部社会実装看護創成研究センター 准教授）

2 「浮腫の診断、アセスメント～ふつうの皮膚科医の立場から」

演者：袋 秀平（ふくろ皮膚科クリニック 院長）

3 「在宅における下腿浮腫の診断、アセスメント」

演者：木下 幹雄（医療法人社団心愛会 TOWN 訪問診療所 理事長）

4 「リンパ浮腫専門外来における、浮腫に対するマネジメント」

演者：林 明辰（亀田総合病院 腺科医長/リンパ浮腫センター センター長）

まとめ

次期会長あいさつ

臺 美佐子（藤田医科大学研究推進本部社会実装看護創成研究センター 准教授）

閉会のあいさつ

内藤 亜由美（東京医療保健大学立川看護学部 准教授）

「ILFJ の 13 年間の軌跡 そして未来」

石川県立看護大学 看護学部 教授

真田 弘美（さなだ ひろみ）



国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会（ILFJ）創設から 13 年を迎えました。International Lymphoedema Framework（ILF）との国際共同研究は、浮腫管理の国際的なエビデンス創出と共に、複数カ国とのネットワークを形成し、日本の若手研究者を多いに育てまいりました。醸成された若手研究者らの浮腫管理へのリサーチマインドは、ILFJ の目的とする“浮腫管理を世界的に改善させる”ことに、大きく貢献するものと期待されます。浮腫管理の課題は、大きくは世界共通です。その中で各国の特徴を踏まえた浮腫管理の構築・実装が求められており、まさに ILFJ の果たすべき役割が、ILF との国際共同研究推進にあるものと思われます。これらの成果は、目の前にいらっしゃる、浮腫にお困りの方々へ実践する適切な治療・ケア、浮腫とともに暮らす健やかな社会の構築に繋がっていくと信じています。本講演では、ILFJ の国際共同研究の成果をご紹介します、これから期待する ILFJ の未来についてお話しいたします。

略歴

石川県立看護大学学長。東京大学名誉教授。1979 年聖路加看護大学卒業、1987 年クリーブランドクリニック聖路加分校 ET スクール修了、1989-90 年イリノイ大学大学院看護学部にて研修、1987-97 年金沢大学医学部研究生 博士(医学)、1998 年金沢大学医学部保健学科教授、2003 年東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻老年看護学分野教授、2017 年グローバルナースングリサーチセンターセンター長（兼任）。2019 年 American Academy of Nursing (FAAN) Fellow。2020 年 第 16 回ヘルシー・ソサエティ賞「パイオニア部門」受賞
2022 年より現職。グローバルな活動とともに基礎研究から臨床応用まで看護学における創傷・スキンケア分野での共同研究や論文発表、講演など国際的に幅広い活動を行っている。

「浮腫の病態の基礎と圧迫療法」

横浜南共済病院心臓血管外科

孟 真（もうまこと）



下肢浮腫は多くの患者が罹患しており、高齢化社会の到来でさらにその必要性は増している。病態は複雑で、心、腎、代謝、栄養、廃用の有無などの全身的な因子、静脈、リンパ、炎症など局所的な原因など様々因子が関連する。特に最近浮腫発症にはリンパ管の関与が大きいことが強調されている。様々な症例を提示しその多様性を示す。

また浮腫の管理は、原因疾患の管理が優先されるが、解決できない問題も多い。浮腫直接の管理としては生活指導、圧迫療法、リンパドレナージなど施行される。本講演では圧迫療法の基礎から応用を示す。弾性ストッキング、弾性包帯などの装具で圧迫を行うが、圧迫装具は着脱が難しく不快感もあり、患者のアドヒアランスを高めるため患者指導が必須である。その講習会である「弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター講習会」を紹介する。

診断と治療にはプライマリーケア、内科、形成外科、皮膚科などの医師、圧迫療法に精通した看護師、訪問看護師、ヘルパー、家族の対応が必要と考える。

略歴

1984 群馬大学医学部卒業、横須賀米国海軍病院インターン、

1986 年横浜市立大学外科治療学（旧第一外科）

2000 年カリフォルニア大学サンディエゴ校胸部心臓血管外科 臨床フェロー・臨床講師

現在、横浜南共済病院 院長補佐、循環器センター部長 ・ 横浜市立大学医学部臨床教授、

心臓血管外科修練指導者・専門医、大動脈ステントグラフト指導医、実施医（腹部）、下肢静脈瘤血管内治療指導医・実施医、日本血管外科学会血管内治療医、

日本静脈学会副理事長・弾性ストッキングストッキングコンダクター養成委員長、日本フットケア足病医学会理事、日本リンパ浮腫治療学会理事、日本血管外科学会評議員、日本心臓血管外科学会評議員、日本医療安全調査機構急性肺塞栓症調査部会員、日本循環器学会ガイドライン班員・協力員、日本静脈学会ガイドライン委員、日本フットケア足病学会ガイドライン班員

「心不全による浮腫 その診断と対処法について」

TOWN 訪問診療所 城南院

宇都宮 誠(うつのみや まこと)



うっ血性心不全は特に高齢者が増えており、しかも予後不良な疾患です。労作時の呼吸困難だけでなく下肢浮腫も特徴的な症状の一つです。軽症の場合は圧迫療法も有効である場合もありますが、下肢に貯留していた体液が心負荷となり心不全を悪化させる可能性もあるため安易な圧迫は慎むべきです。

略歴

学歴・職歴

平成 14.3	東邦大学医学部 卒業
平成 14.5	東邦大学医療センター大橋病院にて研修
平成 17.4	東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科 レジデント
平成 19.4	日産厚生会玉川病院 循環器内科 出向
平成 20.4	京都桂病院 心臓血管センター 出向
平成 21.10	東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科 シニア・レジデント 復職
平成 22.4	東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科 助教
平成 25.4	東京労災病院 循環器内科
平成 26.6	東京労災病院 難治性創傷治療センター 開設
平成 30.4	東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科 助教
令和 2.5	TOWN 訪問診療所城南院 開設
	現在に至る

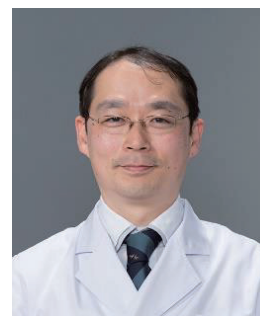
免許・資格

平成 14.5	第 96 回医師国家試験合格 (医籍番号 429941 号)
平成 17.4	日本内科学会認定内科医 (第 27888 号)
平成 21.4	循環器専門医 (第 17158 号)
平成 21.4	日本内科学会認定総合内科専門医 (第 14041 号)
令和 2.2	日本フットケア足病医学会評議員
平成 22.3	医学博士 (東邦大学乙第 2628 号)

「腎疾患と浮腫 診断と治療」

藤沢市民病院 腎臓内科

酒井 政司（さかい まさし）



腎疾患に伴う浮腫形成の機序は、腎臓でのナトリウム貯留（ナトリウム排泄量の低下または再吸収の亢進）により循環血漿量が増加することで毛細血管の静水圧が上昇し、間質への血漿移動が起こることが主因と考えられている。今回は、腎性浮腫をきたす代表的疾患であるネフローゼ症候群と慢性腎臓病（CKD）を取り上げる。両者ともその原疾患は多岐にわたるが、腎性浮腫は両者に共通する主要症状の一つであり、また日常診療でよく遭遇することから、その病態理解や治療法を知っておくことは重要である。一般的には、原疾患の治療に加えて、塩分制限（6g/日未満）と各種の利尿薬（ループ利尿薬、サイアザイド系利尿薬、カリウム保持性利尿薬、トルバプタン、hANP など）を使い分けることになる。更に、利尿薬抵抗性の浮腫の際には、体外循環治療である限外濾過(ECUM)や腹膜透析の場合には浸透圧を用いた除水が用いられている。

略歴

1999 年： 東北大学 医学部 卒業
1999 年： 藤沢市民病院 研修医
2001 年～2005 年：横浜市立大学大学院大学 医学研究科病態制御内科学(内科系内科学第二)
2005 年～2006 年： 横浜市立大学 腎臓・高血圧内科 助教
2006 年～2009 年： 藤沢市民病院 腎臓科 主任医師
2009 年～2018 年： 国際親善総合病院 腎臓・高血圧内科部長
2018 年～現在に至る： 藤沢市民病院 腎臓内科 診療科部長

専門医・所属学会

医学博士

日本内科学会：認定医・総合内科専門医・内科指導医

日本腎臓学会：専門医・指導医

日本透析学会：専門医・指導医

日本高血圧学会：専門医・指導医

日本感染症学会：インфекションコントロールドクター(ICD)

「リンパ浮腫に伴う皮膚の脆弱化」

石川県立看護大学

峰松 健夫（みねまつ たけお）



リンパ浮腫は、それ自体が患者の QOL を損なうばかりでなく、創傷や蜂窩織炎などの皮膚傷害のリスクを高める。そこにはリンパ浮腫に伴う皮膚の脆弱化が関与しており、適切なスキンケアを行うことで患者の QOL を改善し、また皮膚障害を予防することができると考えられるが、効果的なスキンケアはいまだ開発されていない。本講演では、これまでに報告されている皮膚の病態および脆弱化にかかわる知見を紹介し、そのメカニズムを体系化することを試みる。リンパ浮腫では、リンパ液の静水圧や浸透圧、化学的刺激によって細胞を傷害し、バリア機能を低下させる。またその結果引き起こされる炎症反応は、リンパ浮腫の回復を促す反応としてリンパ管新生や血管新生を誘導する一方、CD4⁺ヘルパーT 細胞の活性化に伴う線維化やリンパ管障害から、リンパ浮腫のさらなる増悪につながっていることが推察される。今後は、さらなる研究の進展によって皮膚の変性メカニズムが解明され、新たなケアターゲットの同定と、リンパ浮腫の QOL を改善するスキンケアの開発が望まれる。

略歴

2004 年 3 月	筑波大学大学院博士課程農学研究科 修了
2004 年 4 月	東海大学医学部 特別奨励研究員
2006 年 4 月	(独) 農業生物資源研究所 特別研究員
2007 年 11 月	株式会社バイオマスター 研究員
2008 年 11 月	東京大学大学院医学系研究科 助教
2011 年 4 月	東京大学大学院医学系研究科 特任講師
2017 年 2 月	東京大学大学院医学系研究科 特任准教授
2022 年 4 月	石川県立看護大学 教授

「手術やけがの傷あとをきれいにするための理論と実践 ～患者さんの生活の質（QOL）向上のために～」

日本医科大学 形成外科学教室 主任教授

小川 令（おがわ れい）



手術や傷の治療において、傷あとを最小限にするための手術では、創傷治癒が円滑に進むように、創感染・SSIや肥厚性瘢痕・ケロイドといった合併症を予防することが大切である。

傷あとを最小限にするには、術中の工夫だけでなく、術前の手術デザイン、術後のケアも大切になる。切開のデザインにおいては切開線の方角と、皮膚が日常動作で引っ張られる方角が一致してしまうと、瘢痕とった創全体に緊張がかかり、瘢痕の成熟化が遅れ、炎症が持続し、肥厚性瘢痕・ケロイド発生のリスクが増大する。傷はひとたび上皮化すると、瘢痕の成熟化が始まるが、炎症が遷延すると、肥厚性瘢痕・ケロイドを発症する。体を動かす過度な運動や重労働は避けなければならない。少しでも創を安静に保つため、サージカルテープやシリコンテープによる固定を考慮する。炎症が持続する場合は直ちに副腎皮質ホルモンのテープ剤を開始することが大切である。

目立つ傷あとは患者の生活の質（QOL）を著しく低下させるため、創傷治癒の理論を理解して、治療やケアを行う必要がある。

略歴

1999 年 日本医科大学医学部 卒業
日本医科大学形成外科 入局
2005 年 日本医科大学大学院 修了 同形成外科 助手
会津中央病院形成外科 部長
2006 年 日本医科大学形成外科 講師
日本医科大学付属病院 形成外科・美容外科 医局長
2007 年 米国ハーバード大学ブリガムウィメンズ病院 形成外科
組織工学・創傷治癒研究室 研究員
2009 年 日本医科大学形成外科准教授
2009 年～現在 日本医科大学メカノバイオロジー&メカノセラピー研究室主宰
2019 年～2020 年 東京大学老年看護学/創傷看護学非常勤講師（兼任）
2015 年～現在 日本医科大学 形成外科学教室 主任教授
日本医科大学大学院 形成再建再生医学分野 大学院教授
日本医科大学付属病院 形成外科・再建外科・美容外科 部長
学会役員多数、医学雑誌編集委員多数

「新型コロナウイルス感染症で見た 地域包括ケアシステムの課題」

神奈川県/藤沢市民病院

阿南英明（あなんひであき）



COVID-19 に対応する保健医療体制構築は事前準備に基づくことよりも、状況判断から新規に構築した内容が多かった。感染症指定医療機関（病床）以外の医療機関での対応として重点医療機関を認定、小児、周産期、透析、精神科領域の体制構築、臨時の医療施設や入院待機ステーションの設置、集合検査場の設置、検査・診療医療機関の指定、自宅・宿泊療養の運営など刹那的に必要な仕組みを考案して実施してきた。緊急時対応として、平時と異なる体制で臨んだ対応策であったが、制度の基本理念である「役割分担の機能集約」に基づく仕組みは、地域医療構想や地域包括ケアシステムに通じる共通理念であった。特に地域の医師会や訪問看護ステーションによるハイリスク者に対する見守りや診療介入の仕組みにおいてクラウド化されたカルテによる情報共有の仕組みは複数の機関が共同して高齢者を見守る地域包括ケアシステムの試行運用の成功体験にもなった。一方、高齢福祉施設における感染症を含めた基本的医療提供機能の欠落は進行する高齢化社会の大きな不安要素であることが露呈した。次の災禍に活かすべき教訓を交えて議論したい。

略歴

1991 年 新潟大学医学部卒業

横浜市立大学救命救急センター、藤沢市民病院救命救急センター長・救急科部長などを経て

2019 年 藤沢市民病院副院長

2020 年 神奈川県医療危機対策統括官

2021 年 神奈川県理事（医療危機対策担当）

厚生労働省新型コロナウイルス感染症アドバイザリーボード構成員、東京医科歯科大学医学部臨床教授、福島県立医科大学医学部非常勤講師、日本救急医学会評議員・専門医・指導員、日本災害医学会評議員、日本社会医学系専門医・指導医など

1-1

緩和ケア領域におけるがん性疼痛を有する浮腫患者に対する 簡易リンパドレージの有効性：症例検討

河村 愛¹⁾、臺 美佐子²⁾、神納 美保¹⁾、野田早智恵¹⁾、宇野 みゆき¹⁾、近藤 千恵¹⁾、水谷 洋¹⁾、高井 亜希¹⁾、須釜 淳子²⁾、眞野 恵好¹⁾

1. 藤田医科大学病院 看護部
2. 藤田医科大学 研究推進本部 社会実装看護創成研究センター

【背景・目的】

がんのリンパ節転移に伴う浮腫は、緩和ケア領域で稀にみられ、患者背景に応じた浮腫管理方法が求められる。特に、全身の疼痛・皮膚症状悪化・活動性低下により、ケア難渋例が多い。本症例では、がん性疼痛を有する浮腫患者に対し、簡易リンパドレナージ（SLD）を導入し、苦痛緩和と家族の満足感に繋がった実践を報告する。

【症例】

50 歳代女性で左乳がん StageIV(骨、肺、腋窩リンパ節転移)と診断され、がん性皮膚潰瘍への薬物療法、前胸部・背部疼痛への薬剤投与が行われていた。活動性は、硬性体幹コルセットを使用し、車いす移動であった。リンパ節転移・増大により、左上肢へ浮腫が出現し皮膚の違和感・倦怠感があった。また、末梢神経障害により手指握力や巧緻性が低下し、患者・夫は浮腫セルフケア実践に不安を表出していた。

そこで、乳がん看護認定看護師が SLD 内容を個別に検討し指導した。まず、肩回しを疼痛増強のない程度に行い、次に SLD 手技を夫に指導して患者の四肢皮膚に触れて実践を促した。手技は、右腋窩リンパ節・左鼠径リンパ節へのリンパ誘導、左上肢の皮膚への徒手的なマッサージとした。車いすと向かい合う姿勢で実施し、15 分/回、就寝前と日中に 3～4 回/日を目安にした。

患者と夫は、SLD を 2 ヶ月間継続でき、浮腫による皮膚の違和感・倦怠感、浮腫への不安感が軽減した。また、夫は「何かしてあげることがあってよかった」と発言した。

【考察・結論】

SLD は、エビデンスが少なくガイドラインにおける推奨度は低いものの、緩和ケア領域においては患者背景に応じた実践内容を考案することで、浮腫による苦痛を緩和し、家族の満足感にも繋がりと示唆された。

1-2

超音波検査で観察された末梢静脈カテーテル留置直後の皮下浮腫は中途抜去の要因となる

高橋聡明¹⁾、仲上豪二郎^{1),2)}、村山陵子³⁾、阿部麻里¹⁾、真田弘美⁴⁾

1. 東京大学大学院医学研究科健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学
2. 東京大学大学院医学研究科附属グローバルナーシングリサーチセンター
3. 藤田医科大学社会実装看護創成研究センター
4. 石川県立看護大学

【目的】

既に皮下浮腫が発生している部位に末梢静脈カテーテル(PIVC)の留置を行うことは慣習として実施推奨されていないが、これまでは肉眼による観察が主であり正確な判定ができてきていなかった。そこで本研究では部位を選択し、留置を行った直後に超音波検査装置を用いた観察により皮下浮腫を特定し、治療完遂の合併症発生への影響を明らかにした。

【方法】

本研究は2017年5月から11月までの期間に東京大学医学部附属病院単一の病棟にて行われた介入研究の二次解析である。該当の病棟へ入院し PIVC を利用する患者をリクルートした。カテーテル留置後24時間以内に超音波検査装置 Noblus (Hitachi Aloka)を用いて画像を取得し、熟達した超音波検査士が皮下浮腫の判定を行った。アウトカムを PIVC が治療を完遂せず、中途抜去(CF: Catheter failure)することとした。他調整変数として年齢、性別、BMI、留置回数、投薬内容、既往歴、留置部位、留置血管径、深さを使用した。統計解析として留置時皮下浮腫の有無によるCF発生割合をカイ二乗検定、CF発生までの時間を生存時間としたCox比例ハザード分析を実施した。本研究は東京大学医学部倫理審査委員会の承認を得た。

【結果】

273本のPIVCが解析対象となり、うち留置直後皮下浮腫が観察されたものは19件(7.0%)であった。CFとなったものは79件(28.9%)で、留置直後皮下浮腫がありCFとなった件数は15件(78.9%)であった($p < 0.01$)。留置直後皮下浮腫はCF発生に有意に関連($p < 0.01$)しており、調整済みハザード比は9.4 [95%4.62 -19.44]であった。

【考察/まとめ】

皮下浮腫は従来に報告されてきた疼痛などの苦痛を伴うだけでなく、治療に必要なPIVC留置を完遂できない要因となることが示された。留置時に超音波検査装置を用いた皮下浮腫の観察がCF発生の予測に有効である可能性がある。

開示すべき本研究に関する利益相反はありません

1-3

がん終末期のリンパ漏セルフケア難渋症例に対する医療機関・地域間連携によるアプローチ

宇野 みゆき¹⁾、臺 美佐子²⁾、神納 美保¹⁾、野田 早智恵¹⁾、近藤 千恵¹⁾、河村 愛¹⁾、水谷 洋¹⁾、高井 亜希¹⁾、川崎 俊³⁾、須釜 淳子²⁾、眞野 恵好¹⁾

1. 藤田医科大学病院 看護部
2. 藤田医科大学 研究推進本部 社会実装看護創成研究センター
3. 八事在宅クリニック

【背景・目的】

がん終末期の浮腫発現は多く、それに伴うリンパ漏は、感染リスク、管理困難による患者らの時間・経済的負担、自尊心の低下等を惹起する。今回、がん終末期のリンパ漏セルフケア難渋症例に対し、医療機関・地域間連携により、リンパ漏改善と体力温存が可能となった1症例を報告する。

【症例】

60歳代男性、独居、肝細胞癌、肝内多発・腸骨転移。低アルブミン血症による全身浮腫・腹水貯留、腹部緊満、両下肢の重度の浮腫とリンパ漏、全身倦怠感を認め、衣類着脱やベッドからの離床や歩行困難であった。リンパ漏のセルフケアに難渋し、体力が奪われる要因であったことから、リンパ漏管理に対する課題解決が望まれた。病院から在宅療養への移行に際し、がん領域の認定看護師らによる院内チームが地域専門職種らとリンパ漏管理への調整を図った。具体的には、医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センターとの連携、介護保険申請、福祉用具準備、浮腫・リンパ漏管理の方法検討、訪問看護導入調整を行った。リンパ漏管理は、セルフケアから訪問看護師実施に変更し、両下肢リンパ漏に対する清潔保持、軽度圧迫、吸収性サージカルパッドと保湿剤で皮膚を保護した。これにより、両下肢リンパ漏が軽減し、かつ、患者の休息時間増加により体力が温存された。

【考察・結論】

本症例では、がん終末期患者のリンパ漏管理に対し、医療機関・地域間連携でアプローチすることで、セルフケア難渋により体力が奪われていた問題解決への一助になったと考えられる。がん終末期の浮腫管理の質向上に向け、今後も、終末期特有の諸症状・問題を解決するべく医療機関・地域間の専門職による連携を図っていきたい。

1-4

圧インジケーター付き弾性包帯での圧迫療法における圧迫圧と伸び硬度の検討

根本 寛子¹⁾、孟 真¹⁾、菊池 絵里²⁾、増田 拓¹⁾、阿賀 健一郎¹⁾、伏見 謙一¹⁾、
軽部 義久¹⁾、橋山 直樹¹⁾

1. 横浜南共済病院心臓血管外科, 2. 横浜南共済病院看護部

【目的】

高度静脈不全やリンパ浮腫の治療では、筋ポンプ作用を増強するために、伸びにくい弾性包帯やストッキングを使用する。弾性包帯の伸びやすさは、包帯を 1cm 伸ばすのに必要な圧である伸び硬度(Stiffness)に表され、圧迫療法では、圧迫圧と共に伸び硬度も考慮すべきである。立位での圧迫圧は伸び硬度が高い弾性包帯で上昇するので、立位時と臥位時の圧迫圧差の Static Stiffness Index (SSI)は、伸び硬度の指標となる。今回、伸縮性の異なる圧インジケーター付き包帯で単層、多層圧迫を行い、圧迫圧と伸び硬度の変化を検証した。

【方法】

圧迫療法の経験が異なる医療者 6 名が、同一被検者の下腿に弾性包帯を装着した。圧迫方法は、①圧インジケーター付き高伸縮性弾性包帯 (エラスコット・テンションガイド®、TG) 30mmHg、②TG 45mmHg、③圧インジケーター付き低伸縮性自着弾性包帯・綿包帯の 2 層弾性包帯キット (ジョブスト・コンプリ 2®、45mmHg)、④TG 30mmHg+コンプリ 2、⑤TG 45mmHg+コンプリ 2 の 5 種類で、下腿内側の B1 部で臥位時と立位時の圧迫圧と圧差(SSI)を測定し、各群で比較した。

【結果】

臥位時、立位時共に包帯の層を重ねて圧を上げることで、①35mmHg、②45mmHg、③45mmHg、④30+45mmHg、⑤45+45mmHg の順に圧迫圧 (mmHg) が有意に上昇したが、SSI については有意差が示されなかった。

【結語】

圧迫療法の経験の有無に関わらず、圧インジケーターを基に層を重ねると圧迫圧を適切に調整できる可能性が高いことが示された。

※利益相反の開示

孟 真 バイエル薬品 講演料

「こっそり伝えたい残念な保湿のスキンケア！ ～知ればトクする外用療法のコツとワザ～」

医療法人社団廣仁会 理事長 札幌皮膚科クリニック 院長

安部正敏（あべまさとし）



本会のテーマは“地域包括ケア時代のニューノーマル～転換期を迎える浮腫診療そしてケア～”であり、リンパ浮腫においてもその最外層のスキンケアの重要性は論を俟たない。知ってるつもりの保湿スキンケアも今や多彩な薬剤が登場しニューノーマルの時代となった。例えば、病的皮膚においては表皮顆粒層の構造は変化し、そのために天然保湿因子の組成の変化が生ずる。また先天的にフィラグリン産生が低下する病態も明らかとなり、スキンケアはまさに科学的根拠を持った学問に昇華している。本講演では、皮膚の解剖生理の最新知識と遺伝学的背景、さらには分子生物学的手法を用いた表皮内在性微量蛋白や DNA レベルでの修復異常など、最新の皮膚科学で明らかになった高度な話題を提供するのは演者には荷が重いので、尊敬する内藤亜由美会長のご快諾を頂きいつも通りの平易な言葉で解説を試みたい。講演がつまらないと感じられた場合はすべて座長である内藤亜由美会長のせいである。

略歴

- | | |
|------------|---|
| 1993 年 3 月 | 群馬大学医学部卒業 |
| 4 月 | 群馬大学医学部附属病院研修医（皮膚科学） |
| 1998 年 4 月 | 群馬大学大学院医学研究科博士課程修了 同助手 |
| 2001 年 1 月 | 米国テキサス大学サウスウエスタンメディカルセンター細胞生物学 |
| 2003 年 6 月 | 群馬大学大学院医学系研究科皮膚科学講師 |
| 2013 年 4 月 | 医療法人社団 廣仁会 札幌皮膚科クリニック 副院長 |
| 2018 年 4 月 | 医療法人社団 廣仁会 副理事長 兼 札幌皮膚科クリニック 院長 |
| 2022 年 1 月 | 医療法人社団 廣仁会 理事長 兼 札幌皮膚科クリニック 院長 |
| 主要所属学会： | 日本皮膚科学会 日本臨床皮膚科医会（常任理事・事務局長）
日本創傷・オストミー・失禁管理学会（常任理事）
日本褥瘡学会（常任理事） 日本乾癬学会（理事） |
| 社会活動： | 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 専門委員
NPO 法人皮膚の健康研究機構 理事
学研メディカル秀潤社「Visual Dermatology」編集委員 |
| 連載： | ・皮膚科の臨床（金原出版）「憧鉄雑感（鉄道と皮膚に関するエッセイ）」
・月間ナース（学研メディカル秀潤社）「ナースのための ザンネンなスキンケア（皮膚科専門医からみるスキンケアに関するエッセイ）」 |

「ここまでできる 在宅におけるむくみ治療」



医療法人社団心愛会 TOWN 訪問診療所

木下幹雄（きのしたみきお）

むくみ治療ってなかなかうまくいかないことが多くないですか？私は大学病院や総合病院の形成外科を経て、現在は在宅訪問診療を行っています。大きな病院の外来で患者さんを診ていた時には、何故こんなにむくみが治せないのか？どうして蜂窩織炎が改善しないのか？よく頭を悩ませていました。そして、むくみの治療は本当に難しいと感じていました。

そんな中、在宅訪問診療を始めて気づいたことは、そもそも、自宅にはむくみ治療を指導すべき相手が、患者や家族以外に、別に居た！ということ。そして、そもそも、自宅の中の環境が治療できるような状況じゃなかった。など大きな気づきがあり、在宅診療とむくみ治療の親和性がとても高いことがわかりました。講演では、私が在宅で治療するにあたり、環境を整えたり、物品を調達したりする奮闘をお伝えできればと考えております。

略歴

現職：医療法人社団心愛会 TOWN 訪問診療所 理事長 兼 院長

経歴

2001 年 3 月 東京大学医学部卒業

2001 年 4 月 東京大学 形成外科 入局

2006 年 4 月 杏林大学医学部 形成外科助教

2011 年 4 月 東京西徳洲会病院 形成外科 部長

2017 年 4 月 TOWN 訪問診療所 院長

所属学会

日本フットケア・足病医学会 評議員

日本形成外科学会 認定医

日本創傷外科学会 認定医 評議員

日本褥瘡学会 評議員 東京支部長

日本在宅医療連合学会 評議員

日本創傷治癒学会 など

「多職種連携における看護師の 浮腫アセスメント」

藤田医科大学研究推進本部 社会実装看護創成研究センター

臺 美佐子（だい みさこ）



浮腫を有する方々の療養環境は多岐にわたり、看護師が浮腫管理に携わる機会は多くあります。いずれの療養環境においても、浮腫管理の成功には多職種連携が重要です。その中で、看護師の役割として最初に求められることは、四肢、体幹、陰部などに生じた浮腫に気づくこと、そして、浮腫の程度を視診・触診・周囲径といった外観の指標でアセスメントし、浮腫管理のチームに情報共有することです。外観のアセスメント方法は簡便で、かつ世界中で使用される標準的な方法ですが、見落としやすい点やケア選定への限界があります。本発表では、基本的アセスメント方法とその注意点を述べたうえで、浮腫ケア選定への新たなアセスメントとして超音波画像技術（エコー）を用いた方法と実践への導入についてお話いたします。

略歴

藤田医科大学研究推進本部 社会実装看護創成研究センター准教授。

博士（保健学）、看護師、リンパ浮腫療法士、医療リンパドレナージセラピスト。

2005年群馬大学医学部保健学科看護学専攻卒業、2005-08年慶應義塾大学病院脳神経外科病棟で看護師として勤務、2008-14年金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻で博士（保健学）取得。2010-19年金沢大学医薬保健研究域保健学系助教、2019-21年東京大学大学院医学系研究科社会連携講座スキンケアサイエンス特任講師、2021年より現職。国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会と International Lymphoedema Framework との国際共同研究、リンパ浮腫エコーアセスメント、看護ケアの研究成果を国際誌へ論文発表し、国際学会やサマープログラム等で教育・普及活動に従事するなど、リンパ浮腫管理の質改善に向けて国際的に活動している。

「浮腫の診断、アセスメント ～ふつうの皮膚科医の立場から」

ふくろ皮膚科クリニック

袋 秀平 (ふくろ しゅうへい)



医学の勉強をする際に、皮膚科の病名が多すぎて嫌になった経験はないだろうか。皮膚科の教育を系統立てて行う場合、どうしても疾患の分類に準じておこなうことになるし、ほぼすべての教科書はそうように編纂されている。もちろん病態についても考慮するが、気が付いてみると「浮腫」としてまとまった教育を受けた記憶はない。下肢の浮腫の患者は多いが、患者の側からも「何科を受診したらよいかわからなくて、とりあえず皮膚科に来てみた」という声が聞こえる。実際には循環器、腎臓、血液、代謝内分泌、感染症、血管外科、婦人科、整形外科等、さまざまな診療分野の知識、鑑別も必要となる。今回は浮腫を専門としない「ふつー」の皮膚科医が日常診療で遭遇した症例を提示し、どのように考えてどのように対処しているかを述べるとともに、スキンケアについても触れてその任を果たしたい。

略歴

1985 年 東京医科歯科大学医学部卒業
1986 年 中野総合病院皮膚科医員
1988 年 東京医科歯科大学皮膚科助手
1993 年 横須賀市立病院皮膚科医員
1999 年 ふくろ皮膚科クリニック開設

役職・資格

日本褥瘡学会理事（在宅委員長）
日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会理事
日本フットケア・足病医学会評議員（在宅委員長）
日本臨床皮膚科医会在宅委員長
神奈川県皮膚科医会副会長
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
日本皮膚科学会・褥瘡認定師

「在宅における下腿浮腫のアセスメント」

医療法人社団心愛会 TOWN 訪問診療所

木下 幹雄（きのしたみきお）



在宅診療では、利用できる検査機器も限られており、いわゆる医学的な診断やアセスメントを正確に行いたい場合には不利な環境である。一方、患者の生活環境や ADL のアセスメントには有利な環境であると言える。また、治療においては、患者の生活の場に直接介入でき、ケアギバーに直接指導できるなどのメリットも多い。

「診断や病態の評価については病院や専門クリニックで」行ってもらい、患者の生活環境や ADL をアセスメントし、診療を引き継ぐスタイルが最も理にかなっていると考えられる。

在宅で行うことのできるアセスメント

- ① 視診と触診
- ② 動脈の評価（ABI 検査、SPP 検査、エコー検査）
- ③ 静脈の評価（エコー検査）
- ④ 栄養状態の評価
- ⑤ 日常生活状況（ADL、自宅での生活の評価など）

前述のように、在宅では、具体的な治療への落とし込みがかなり詳細にできる点で有利である。発表では具体的な症例を交えて報告したい。

略歴

現職：医療法人社団心愛会 TOWN 訪問診療所 理事長 兼 院長

経歴

2001 年 3 月 東京大学医学部卒業
2001 年 4 月 東京大学 形成外科 入局
2006 年 4 月 杏林大学医学部 形成外科助教
2011 年 4 月 東京西徳洲会病院 形成外科 部長
2017 年 4 月 TOWN 訪問診療所 院長

所属学会

日本フットケア・足病医学会 評議員
日本形成外科学会 認定医
日本創傷外科学会 認定医 評議員
日本褥瘡学会 評議員 東京支部長
日本在宅医療連合学会 評議員
日本創傷治癒学会 など

「リンパ浮腫専門外来における、 浮腫に対するマネジメント」

亀田総合病院 リンパ浮腫センター

林 明辰（はやし あきたつ）



リンパ浮腫専門外来における初診においては、他の原因で起こる浮腫とリンパ浮腫との鑑別やアセスメントが重要である。しかし、その一方でリンパ浮腫専門外来においては、限られたリソースの中ですべての浮腫患者を対象に浮腫の鑑別を一から行うことは困難であり、患者・医療者両者の負担も大きくなりやすい。当施設では、他科や連携医と協力しながら、また外来では造影検査や超音波などリンパ管を“見える化”できる機器を常時に使いながら、浮腫を抱えた患者にとって効率よく浮腫のマネジメントができるようにシステムづくりを目指している。

略歴

- 2010 年 順天堂大学 医学部卒業
国立国際医療研究センター病院 初期臨床研修医
- 2012 年 東京大学医学部附属病院 形成外科 医員
- 2015 年 国保旭中央病院 形成外科 主任医員
- 2017 年 AZ Sint-Maarten Hospital (Belgium) 技術指導医
- 2018 年 亀田総合病院 乳腺科 リンパ浮腫外来 医長
- 2019 年 Asan Medical Center(Korea) 客員教授
- 2020 年 亀田総合病院 リンパ浮腫センター センター長 ※現在に至る
Buncke Clinic (USA) 客員教授
- 2021 年 Kaoshiung Chang Gung Memorial Hospital (Taiwan) 客員教授

Memo

協賛企業一覧

国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会第11回学術集会の

開催にあたりまして、多くのご協賛をいただきました。

ここに謹んで御礼申し上げます。

広告

コロプラス株式会社
株式会社学研メディカル秀潤社
おのだ皮膚科
心臓クリニック 藤沢六会
白十字株式会社
大船笠間皮膚科医院
エーザイ株式会社
サノフィ株式会社

日本イーライリリー株式会社
アッヴィ合同会社
ナディスよこはま
医療法人久善会 やのハートクリニック
ユーシービージャパン株式会社
大塚製薬株式会社
佐藤製薬株式会社
アムジェン株式会社

バナー広告

パラマウントベッド株式会社
スリーエム ジャパン株式会社
スミス・アンド・ネフュー株式会社
協和キリン株式会社
ケーシーアイ株式会社

コンバテックジャパン株式会社
持田ヘルスケア株式会社
株式会社共和
株式会社ベーテル・プラス
株式会社ニトムズ

共催

アルケア株式会社
株式会社ケーブ

ニチバン株式会社
マルホ株式会社

企業プレゼン

アルケア株式会社

寄付

高野 学

ふくろ皮膚科クリニック

(順不同 敬称略)



h/hc
human health care

患者様の
想いを見つめて、
薬は生まれる。

笑顔につながる
明日を、共に。

アッヴィ合同会社

〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目1番21号
msb Tamachi 田町ステーションタワーS
<https://www.abbvie.co.jp/>

abbvie

People. Passion.
Possibilities.®

ヒューマン・ヘルスケア企業

エーザイ

Otsuka-people creating new products
for better health worldwide

 Otsuka 大塚製薬
<https://www.otsuka.co.jp/>



おのだ皮膚科

〒220-0073 横浜市西区岡野 2-5-18

サミット横浜岡野店 2F

横浜医療タウン

TEL: 045-323-3553

<https://www.onoda-hifuka.jp/>

通いやすく安心できる
環境こそが
安定化を図る一歩

ナデイスよこはま

リンパ浮腫・むくみケア専門サロン／訪問看護
鎌倉店/横浜店 ☎045-212-5567



WEB QRコード



LINE QRコード



広告



大船笠間皮膚科

OFUNA KASAMA DERMATOLOGY

●皮膚科 ●小児皮膚科 ●アレルギー科

診療時間	月	火	水	木	金	土
8:30~12:30	●	●	●	●	●	●
14:30~18:30	●	●	/	●	●	/

※男性女性医師とも常勤、担当日はHP参照

【休診日】水曜午後・土曜午後・日曜・祝日

〒247-0056

鎌倉市大船 2-18-9



0467-43-3923

<https://www.ofuna-kasama-hifuka.jp>

大船笠間皮膚科



MAP



当駅『笠間口』より 徒歩 3 分

スキントラブルケア パーフェクトガイド

改訂第2版

好評書

病態 検査 治療 予防 ケア

がすべてわかる!

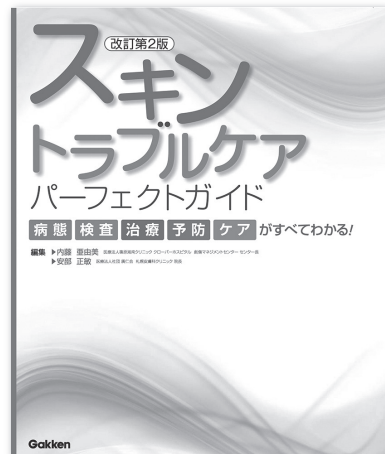
編集：内藤亜由美

(医療法人篠原湘南クリニック クローバーホスピタル 創傷マネジメントセンター センター長)

安部正敏 (医療法人社団 廣仁会 札幌皮膚科クリニック 院長)

新人・WOCナース、その他関連医療従事者に向け、日常遭遇する皮膚疾患の基礎知識・病態・処置別のスキントラブルケア予防方法と対応を分かりやすくビジュアルに各エキスパートが解説。病態理解の項目をさらに充実。

- 定価：4,400円 (10%税込) ● AB判 ● 400ページ
- ISBN：978-4-7809-1328-6



この二次元バーコードはアクセス解析のためにCookieを使用しています。アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。この機能はCookieを無効にすることで収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。

株式会社 Gakken メディカル出版事業部 東京都品川区西五反田 2-11-8

Tel：03-6431-1234 FAX：03-6431-1790 ※学研メディカル秀潤社は2022年10月1日付学研グループ内組織再編により、株式会社 Gakken になりました。

薬用 シルティ 保湿ローション

ピュアセリシン™とセラミドNPの二つの保湿成分を配合

1 バリア機能を補い肌荒れを防ぐ

- ・ピュアセリシン™とセラミドNPのW保湿成分配合
- ・抗炎症成分配合で肌荒れを防ぎます

2 皮膚へのやさしさ

- ・6つの「フリー」(アルコール / 鉱物油 / 石油系界面活性剤 / パラベン / 着色料 / 香料)
- ・パッチテスト、アレルギーテスト実施済
(すべての方に皮膚トラブルが起こらないということではありません)
- ・弱酸性

3 使い心地

- ・全身ケアに最適な伸び
- ・皮膚保護剤の貼付を妨げない
- ・医療用粘着剤の貼付を妨げない
- ・さらっとした使用感

※皮膚になじんだことを確認してから貼付してください。





経口抗真菌剤

処方箋医薬品^(注)

薬価基準収載

ネイリン[®] カプセル100mg

NAILIN[®] Capsules 100mg

ホスラブコナゾール・トリシニエタノール付加物カプセル
注) 注意-医師等の処方箋により使用すること

製造販売元(資料請求先)

佐藤製薬株式会社

東京都港区元赤坂1丁目5番27号

医薬事業部 フリーダイヤル 0120-310-656

販売提携(資料請求先)

エーザイ株式会社

東京都文京区小石川4-6-10

hhc ホットライン フリーダイヤル 0120-419-497
9~18時(土、日、祝日 9~17時)

■ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等につきましては製品添付文書をご参照ください。

2019年1月作成



HEART CLINIC
Fujisawa Mutsuai

心臓クリニック藤沢六会

循環器内科

心臓血管外科

内科

心エコー トレッドミル負荷狭心症検査 24時間心電計 脈波計測(血管年齢) 睡眠時無呼吸検査

	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00 ~ 12:00	○	○	○	○	○	○	△
15:00 ~ 18:30	○	○	○	○	○	—	—
18:30 ~ 20:00	—	—	—	—	△	—	—

○予約優先 △予約限定

院長 医学博士 磯田 晋

循環器専門医 心臓血管外科専門医

横浜市立大学医学部卒業

横浜市立大学客員教授

元藤沢市民病院 心臓血管外科主任部長

● WEB 予約

● WEB 問診

● クレジットカード対応

● 駐車場あり

六会日大駅徒歩3分
TEL.0466-52-8200

詳細は WEB で
<https://stg.heartmutsuai.clinic/>



リンパ浮腫での滲出液ケアにおすすめ 白十字の外科用パッドのご紹介

モイスキンパッド

一般医療機器

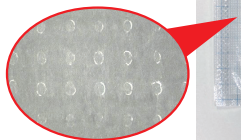
手術用被覆・保護材 熱傷被覆・保護材 販売名:モイスキンパッド 滅菌済
届出番号:13B2X00023000142

滲出液を適度に吸収し
創部に固着しにくい外科用パッド

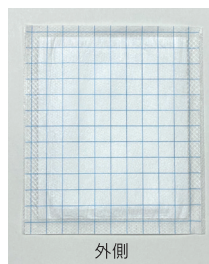
① 固着しにくい孔開きフィルム

② 適度な滲出液吸収

商品情報は
こちら

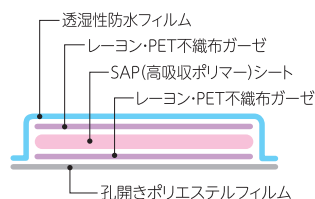


内側(創部側)



外側

構造



マインパッド ギャザー付ドレッシング

一般医療機器

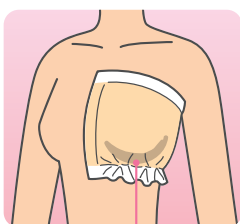
綿状創傷被覆・保護材 販売名:マインパッド
届出番号:13B2X00023000169

体の凹凸部に合わせやすい
ギャザー付ドレッシング

① やわらかな高吸収マット

② ギャザー付ドレッシング

商品情報は
こちら



ギャザーが凹凸部にフィット!

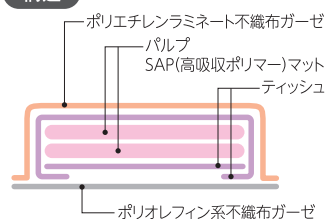


内側(創部側)



外側

構造



白十字株式会社

〒171-8552 東京都豊島区高田3-23-12

お客様相談室 ☎ 0120-01-8910

受付時間/9:00~17:00(月~金※祝日を除く)

<https://www.hakujuji.co.jp>



アムジェン株式会社 **AMGEN**[®]

To serve patients

患者さんのために、今できるすべてを



アムジェンは1980年、バイオテクノロジーの黎明期に

米国カリフォルニア州ロサンゼルス近郊にて産声を上げました。

バイオテクノロジーを患者さんのために役立てることを決意し、

以来、探求を重ねてきました。

40年を経た現在、アムジェンは世界最大規模の

独立バイオテクノロジー企業へと成長しました。

日本では、循環器疾患、がん、骨疾患、炎症・免疫性疾患、

神経疾患の領域に重点を置き、

アンメット・メディカルニーズに応える製品開発を進めています。

アムジェン株式会社の
詳細につきましては
こちらをご覧ください



国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会



「キュンとするまち。藤沢」
公式マスコットキャラクター ふじキュン♡

第77回学術集会

開催おめでとうございます！

活発で有意義な討論に期待しています



内科 心臓血管外科 循環器内科

やのハートクリニック

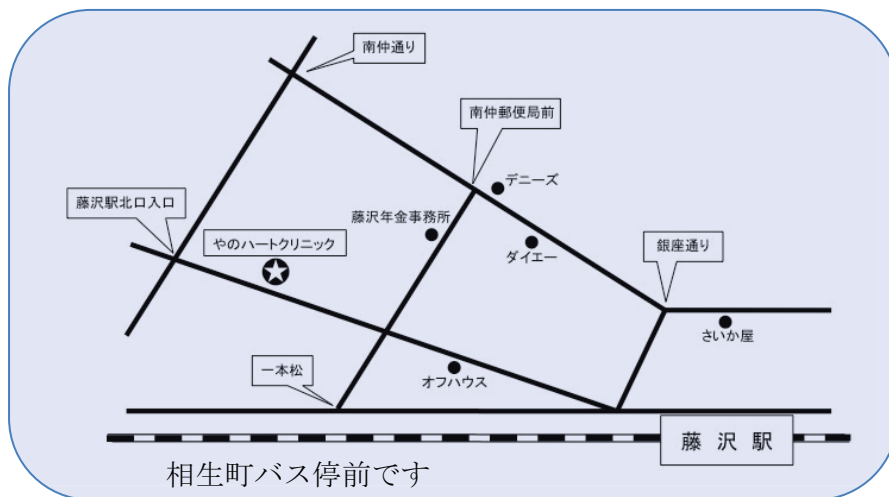
診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
15:00～19:00	○	○	○	○	○	X

心臓・血管疾患が専門です
下肢浮腫の診察・治療も

行っております

お困りのことがあればご相談ください

休診日：土曜午後 日曜 祝日



〒251-0052 藤沢市藤沢1099-5

ヤノハート
TEL:0466-29-8810

<http://www.yanoheart-cl.com>



ヒト型抗ヒトIL-4/13受容体モノクローナル抗体

薬価基準収載

デュピクセント[®] 皮下注 ペン
300mg シリンジ

DUPIXENT[®] デュピルマブ(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)

最適使用推進ガイドライン対象品目

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等については電子添文をご参照ください。

sanofi

MAT-JP-2203048-1.0
2022年5月作成

製造販売: **サノフィ株式会社**
〒163-1488
東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

患者さんとの絆をつなぐ

重篤な疾患と共に生きる患者さんとそのご家族が、笑顔を取り戻し、人生の喜びを感じていただくことがユーシービージャパンの願いです。

私たちは患者さんを全ての中心に据えて、ニューロロジーと免疫・炎症領域に力を注いでいます。患者さんに鼓舞されて、最先端の科学、革新的な医薬品、実用的なソリューションをさらに一歩進めます。



Inspired by patients.
Driven by science.

ユーシービージャパン株式会社

世界中の人々の
より豊かな人生のため、
革新的医薬品に
思いやりを込めて

Lilly



日本イーライリリーは製薬会社として、
人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、
がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、
成長障害、疼痛などの領域で、日本の医療に貢献しています。

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区磯上通 5-1-28
www.lilly.co.jp